

にくけん通信

- 令和2年度の枝肉共励会*について種雄牛別成績を取りまとめました。
 - ・ 県産牛は、344頭中141頭で、割合は41%です。
 - ・ 枝肉重量は、全体平均（544.1kg）で、東京市場と比較して10kg程度上回っています。
 - ・ 脂肪交雑は、全体平均（9.2）と東京市場（9.3）と比較しても遜色ない成績ですが、雌では平均8.5と東京市場と比較すると少し差があります。

	区分	頭数	県産牛	月齢	枝重	ロース面積	ばら厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	脂肪交雑	5等級	常陸牛率 (4等級以上率)
県内共励会	雌	51 14.8%	33 64.7%	30.8	490.0	69.2	8.7	2.7	73.3	8.5	63%	92%
	去勢	293 85.2%	108 36.9%	30.8	553.5	76.5	9.0	2.2	74.0	9.3	78%	97%
	計	344 100%	141 41.0%	30.8	544.1	75.5	9.0	2.3	73.9	9.2	76%	96%
東京市場**	雌	1117 30.0%	-	31.2	469.7	71.5	8.0	2.8	75.5	9.3	75%	97%
	去勢	2610 70.0%	-	30.1	557.9	78.5	8.5	2.4	76.0	9.3	72%	95%
	計	3727 100%	-	30.4	531.5	76.4	8.3	2.5	75.9	9.3	73%	96%

* 第31回茨城県肉牛枝肉共励会（91頭），第12回茨城県肉牛生産者共進会（61頭），第64回茨城県肉用牛共進会（111頭），第48回茨城県常陸牛枝肉共励会（81頭）

** 東京市場のデータは、肉牛新報社の承諾をうけ、肉牛ジャーナルの5月号に掲載されているデータを転載しています。

● 種雄牛別成績で北国関7・茂光洋が好成績！！

- ・ 5頭以上の出品があった種雄牛は20頭。最も出品が多かった種雄牛は美津照重（36頭）。北国関7は21頭（6番目），茂光洋は23頭（5番目）。
- ・ 常陸牛率は、20頭中17頭（北国関7，茂光洋など）が100%を記録。
- ・ 脂肪交雑の成績は、上位5頭が10.0以上の好成績。最も良かった種雄牛は、幸紀雄（10.4），次いで北国関7（10.4）で、茂光洋も2代祖安福久の組合せが23頭中5頭しかいない中、脂肪交雑（8.8）を記録。
- ・ 枝肉重量の成績は、金太郎3が600kg以上を記録。
- ・ ロース芯面積は、華春福が90cm²以上を記録

序列	種雄牛	頭数			月 齢	枝肉重量	ロース芯面積	ばら厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	脂肪交雑	5等級率	4等級率	常陸牛率
		雌	去勢	計										
1	幸紀雄	3	27	30	30.5	555.6	83.5	9.3	2.4	74.8	10.4	90%	10%	100%
2	北国関7	3	18	21	31.1	533.9	76.9	9.1	2.1	75.1	10.4	90%	10%	100%
3	百合白清2	0	10	10	30.7	560.2	73.5	9.0	2.3	72.5	10.2	90%	10%	100%
4	金太郎3	0	7	7	30.4	608.0	75.9	10.2	2.0	71.1	10.1	86%	14%	100%
5	百合茂	0	6	6	30.1	541.5	67.5	9.1	2.4	75.4	10.0	100%	0%	100%
6	美津照重	6	30	36	30.9	528.0	76.5	8.5	2.4	72.8	9.9	92%	8%	100%
7	勝早桜5	6	20	26	30.2	554.0	78.8	9.3	2.6	72.6	9.6	81%	12%	92%
8	耕富士	0	8	8	30.7	572.3	73.1	9.2	2.0	75.3	9.5	88%	13%	100%
9	第1花藤	1	6	7	31.1	548.0	78.3	9.2	2.0	74.6	9.4	86%	14%	100%
10	華春福	0	5	5	30.4	575.6	93.4	9.8	2.4	78.8	9.2	80%	20%	100%
11	花国安福	0	6	6	30.1	577.8	74.7	9.7	2.6	76.0	9.2	83%	17%	100%
12	福増	0	6	6	30.7	569.6	72.2	8.4	2.2	73.4	9.2	100%	0%	100%
13	諒太郎	2	8	10	30.9	554.9	73.5	8.3	2.1	73.3	9.1	80%	10%	90%
14	茂光洋	3	20	23	30.6	530.0	76.7	8.7	2.2	75.9	8.8	70%	30%	100%
15	安福久	0	10	10	31.2	531.1	71.8	8.5	2.1	74.8	8.7	70%	30%	100%
16	美国桜	3	21	24	31.2	545.3	76.7	8.9	2.4	71.5	8.6	63%	29%	92%
17	光平照	1	4	5	30.7	523.1	69.2	8.8	2.6	75.4	8.6	60%	40%	100%
18	隆之国	0	5	5	30.8	559.8	77.0	8.8	1.9	72.6	8.4	60%	40%	100%
19	直太郎	1	6	7	31.6	560.3	77.4	9.3	1.9	77.0	8.0	57%	43%	100%
19	芳乃国	2	5	7	30.1	578.1	68.4	9.7	3.1	73.9	8.0	71%	29%	100%

●2代祖別成績でも北国関7が好成績！！

- 2代祖で5頭以上の出品があった種雄牛は11頭で、最も出品が多かった種雄牛は安福久（107頭），北国関7は12頭（7番目）。
- 常陸牛率は，12頭中4頭（北国関7など）が100%を記録。
- 脂肪交雑の成績は，美国桜，安福久が10以上を記録。北国関7（9.3）は5番目。
- 枝肉重量，ロース芯面積の成績は，美国桜が576.5kg，84.8cm²を記録しトップ。

序列	種雄牛	頭数			月 齢	枝肉重量	ロース芯面積	ばら厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	脂肪交雑	5等級率	4等級率	常陸牛率
		雌	去勢	計										
1	美国桜	1	16	17	31.2	576.5	84.8	9.5	2.2	75.1	10.3	82.4%	17.6%	100.0%
2	安福久	5	102	107	30.8	559.2	83.9	9.0	2.0	74.1	10.2	86.0%	8.4%	94.4%
3	第1花園	1	5	6	29.4	522.7	74.2	9.1	2.4	76.4	9.4	66.7%	16.7%	83.3%
4	百合茂	3	35	38	30.8	551.2	75.3	9.0	2.3	73.9	9.3	81.6%	15.8%	97.4%
5	北国関7	3	9	12	30.0	525.3	71.4	9.1	2.5	74.1	9.3	75.0%	25.0%	100.0%
6	隆之国	2	8	10	30.4	534.0	70.7	9.2	2.6	75.7	9.0	70.0%	20.0%	90.0%
7	美津照重	4	11	15	30.6	520.2	65.9	8.6	2.7	74.8	8.8	73.3%	20.0%	93.3%
8	芳之国	3	2	5	31.2	544.0	71.4	8.7	3.0	75.0	8.6	60.0%	20.0%	80.0%
9	勝忠平	3	22	25	30.5	548.4	68.2	8.8	2.4	73.5	8.4	64.0%	36.0%	100.0%
10	平茂勝	4	11	15	31.0	530.2	66.9	8.8	2.5	71.9	8.3	66.7%	26.7%	93.3%
11	安平照	2	5	7	30.3	512.6	68.0	8.6	2.8	75.1	7.7	42.9%	57.1%	100.0%

●2代祖「安福久」の種雄牛別成績では，北国関7が好相性を証明！！

- 2代祖に安福久をもち5頭以上の出品があった種雄牛は7頭で，最も出品が多かった種雄牛は幸紀雄（17頭），北国関7は11頭（3番目）。茂光洋は5頭。
- 常陸牛率は，7頭中5頭（北国関7，茂光洋など）が100%を記録。
- 脂肪交雑の成績は，4頭以上が脂肪交雑10以上を記録するなか，幸紀雄が11，次いで，北国関7の10.5を記録し好相性を証明。茂光洋も9.8で前述した出品牛全体平均より脂肪交雑を1.0上げ，相性の良さを発揮。
- 枝肉重量，ロース芯面積の成績は，華春福が575.6kg，93.4cm²を記録しトップ。

序列	種雄牛		頭数			月 齢	枝肉重量	ロース芯面積	ばら厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	脂肪交雑	5等級率	4等級率	常陸牛率
	父	母の父	雌	去勢	計										
1	幸紀雄	安福久	2	15	17	30.7	563.4	85.5	9.3	2.4	73.5	11.0	94.1%	0.0%	94.1%
2	北国関7	安福久	1	10	11	30.7	547.2	82.0	9.1	1.7	75.7	10.5	90.9%	9.1%	100.0%
3	勝早桜5	安福久	2	3	15	30.3	554.8	81.0	9.1	2.5	72.1	10.3	86.7%	13.3%	100.0%
4	美津照重	安福久	0	6	6	32.2	535.4	86.0	8.4	2.1	72.3	10.2	100.0%	0.0%	100.0%
5	茂光洋	安福久	0	5	5	30.7	555.2	90.8	8.3	1.6	78.4	9.8	100.0%	0.0%	100.0%
7	華春福	安福久	0	5	5	30.4	575.6	93.4	9.8	2.4	78.8	9.2	80.0%	20.0%	100.0%
6	美国桜	安福久	0	10	10	31.5	569.2	83.1	9.3	2.2	72.0	9.2	80.0%	10.0%	90.0%

本県の種雄牛は，これまで2代，3代と優良な血統が繋がったことがありません。そのため，当所では，「北国関7」の息牛「北平関」について昨年10月から精液の配布をはじめています。北平関号は枝肉重量と脂肪交雑の育種価が高く，増体肉質系の牛を目指すことができます。

当所では，育種価と近交係数を活用した，繁殖雌牛群の遺伝的能力の解析を行っています。お気軽にご相談ください。

和牛の育種・改良に県種雄牛の精液を積極的に活用し，常陸牛の歴史を共につぶぎましょう！